

3 . 流域の社会状況

3 - 1 . 土地利用の現況

(1) 土地利用の現況

流域の土地利用は、山地等が約94%、水田や果樹園等の農地が約5%、宅地等市街地が約1%となっており、経年的にも顕著な変化はみられない。

表3-1-1 土地利用の現況

項 目	面積 (km ²)	全面積に占める割合
流域面積	1820.0	-
山地等	1715.9	94%
農 地	91.0	5%
宅地等市街地	13.1	1%

(出典)平成7年度 河川現況調査

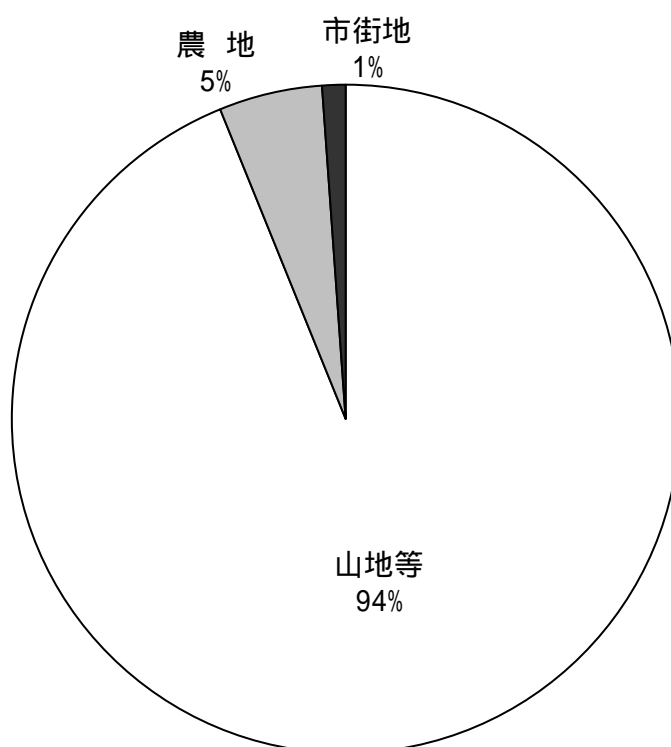


図 3 - 1 土地の利用状況

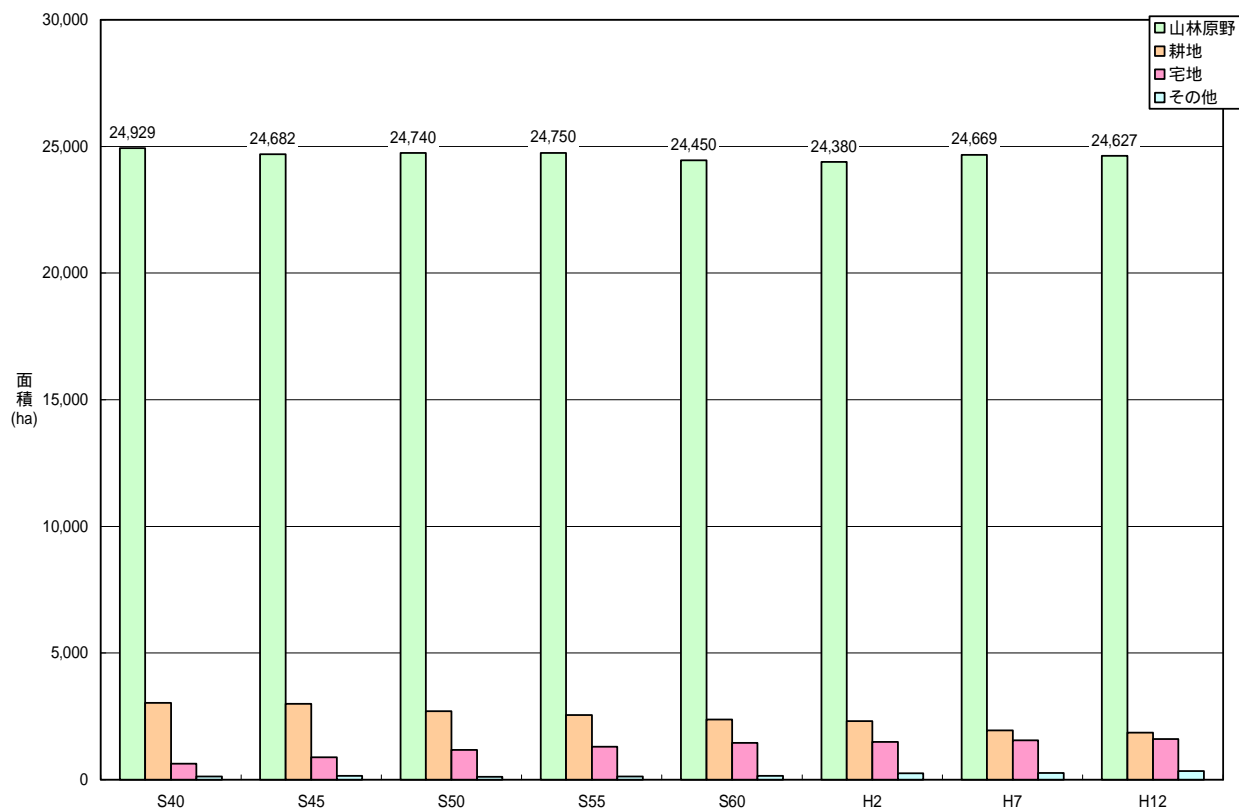


図3-1-1 五ヶ瀬川水系関係市町村地目別面積変化グラフ（下流域：宮崎県；延岡市）

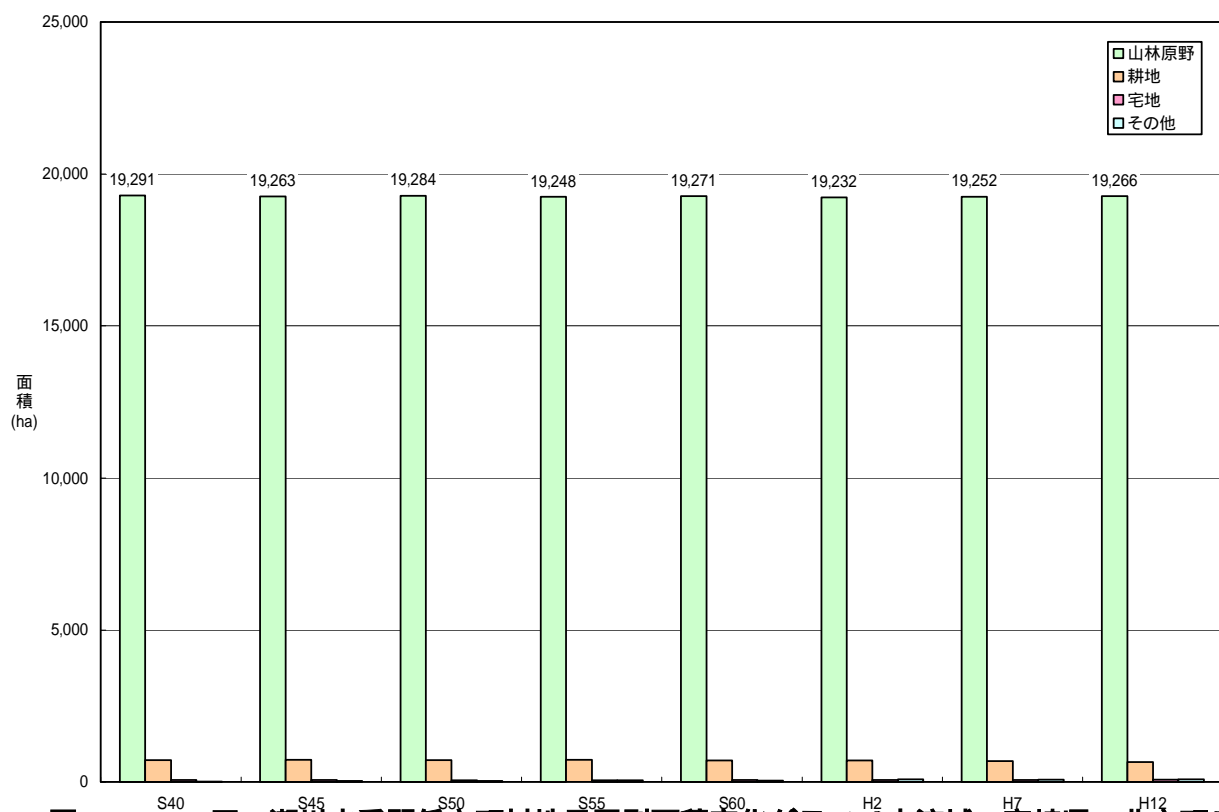


図3-1-2 五ヶ瀬川水系関係市町村地目別面積変化グラフ（中流域：宮崎県；北方町）

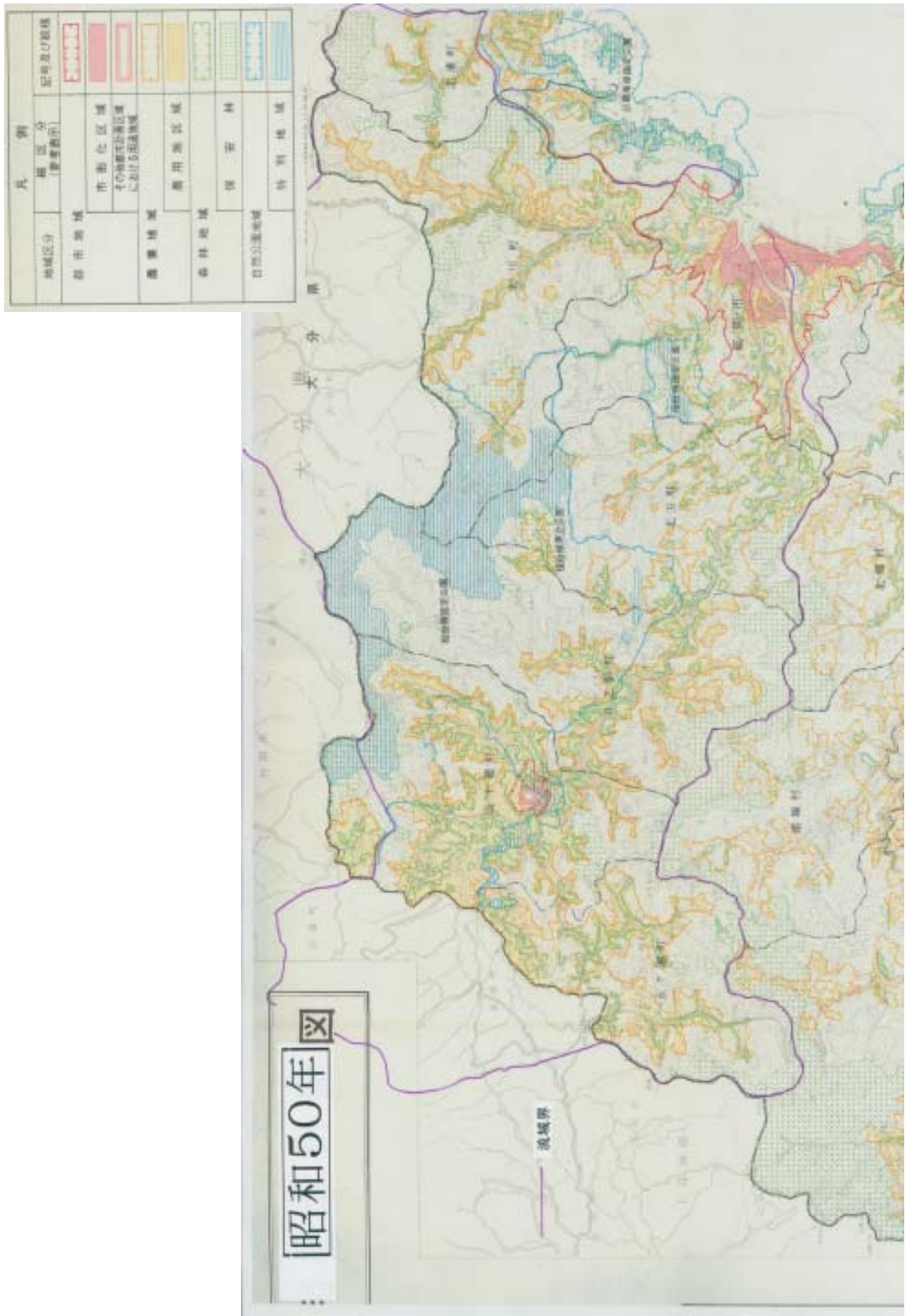


図3-1-3(1) 五ヶ瀬川流域土地利用変遷図（昭和50年）

昭和50年から平成10年における土地利用の顕著な変化はみられない。

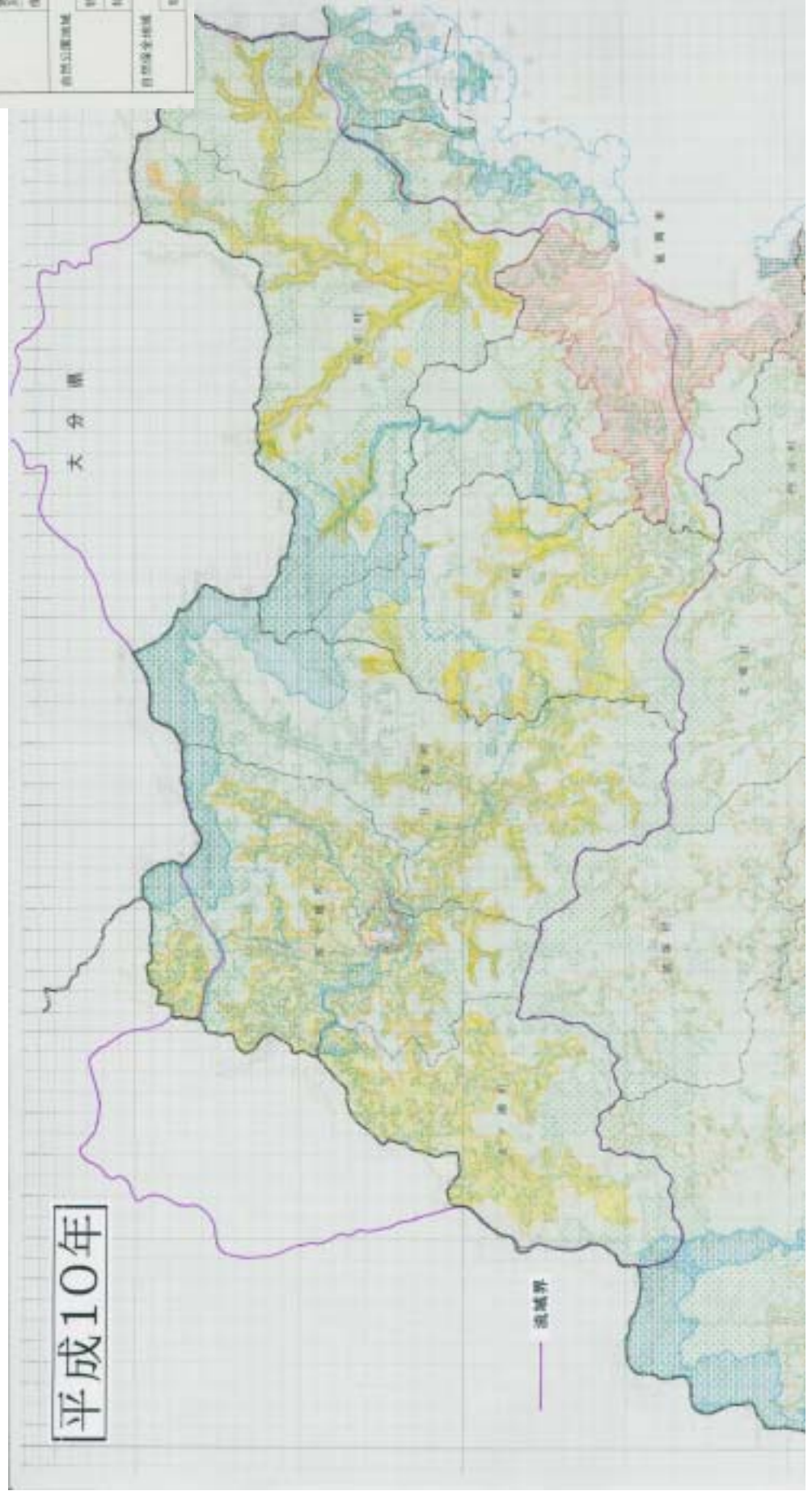


図3-1-3(2) 五ヶ瀬川流域土地利用変遷図(平成10年)

图3-1-6(1) 河口部経年变化图

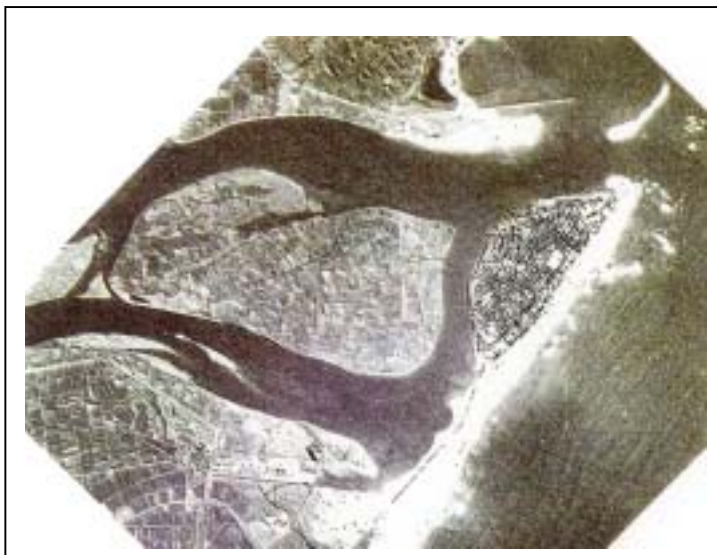
(S=1:25,000)



◀ 撮影日 昭和22年



◀ 撮影日 昭和33年3月10日



◀ 撮影日 昭和35年7月30日

图3-1-6(2) 河口部経年变化图

(S=1:25,000)



◀ 撮影日 昭和52年8月



◀ 撮影日 昭和53年7月



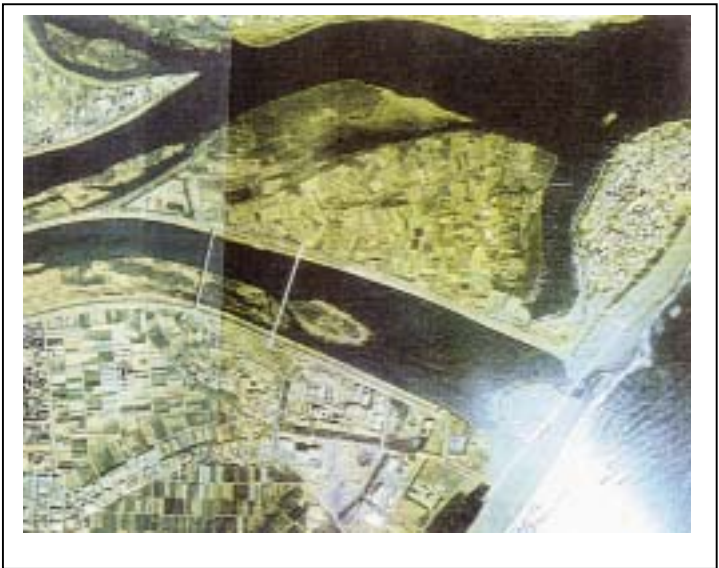
◀ 撮影日 昭和57年8月20日

图3-1-6(3) 河口部経年变化图

(S=1:25,000)



◀ 撮影日 平成6年3月20日



◀ 撮影日 平成7年3月22日



◀ 撮影日 平成11年12月31日

3 - 2 . 人口

流域内の人口は、そのほとんどが五ヶ瀬川下流部（延岡市街部）に集中しており、現在の流域内人口は約12万8千人、想定氾濫区域内人口は約6万5千人となっている。（河川現況調査）流域全体の特徴としては、昭和35年から一時減少傾向にあったが、昭和50年に過去最高の21万人の人口となっている。しかしながら、その後は現在まで徐々に減少し、昭和50年から平成7年までに約16%の減少となっている。（図3-2-1参照）

流域ごとに人口の変化をみると、下流域であり、流域内の産業経済の中心である延岡市については昭和35以降急激な増加をみせるが、昭和55年にピークを迎えると、その後年々減少し、現在はピーク時の約7%の人口減となっている。（図3-2-2参照）

中流域の北方町については、昭和35年以降急激な人口減少が続いており、現在では昭和35年の半数以下（約56%の減少）の人口となっている。（図3-2-3参照）

上流域は宮崎県の日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町及び熊本県の蘇陽町、高森町の範囲として集計した。また、高千穂町については昭和44年に上野村と合併しているため、昭和35年と40年の人口は2町村の合計値とした。この流域に関しても人口の減少は激しく、昭和35年以降右下がりの傾向は続き、現在は昭和35年の約半数の人口となっている。（図3-2-4参照）

五ヶ瀬川の支川である祝子川・北川流域として宮崎県北川町、北浦町、及び大分県大分町の人口を集計した。この流域においても減少傾向は著しく、昭和35年以降現在までに約47%の減少となっている。（図3-2-5参照）

以上により、山間地である中～上流域及び支川に属する町においては人口の減少が著しく進行しているとともに、延岡市についても徐々に人口の減少が起こっている。これは、山間部における過疎化の進行、及び全国的な少子化の影響によるものと考えられる。

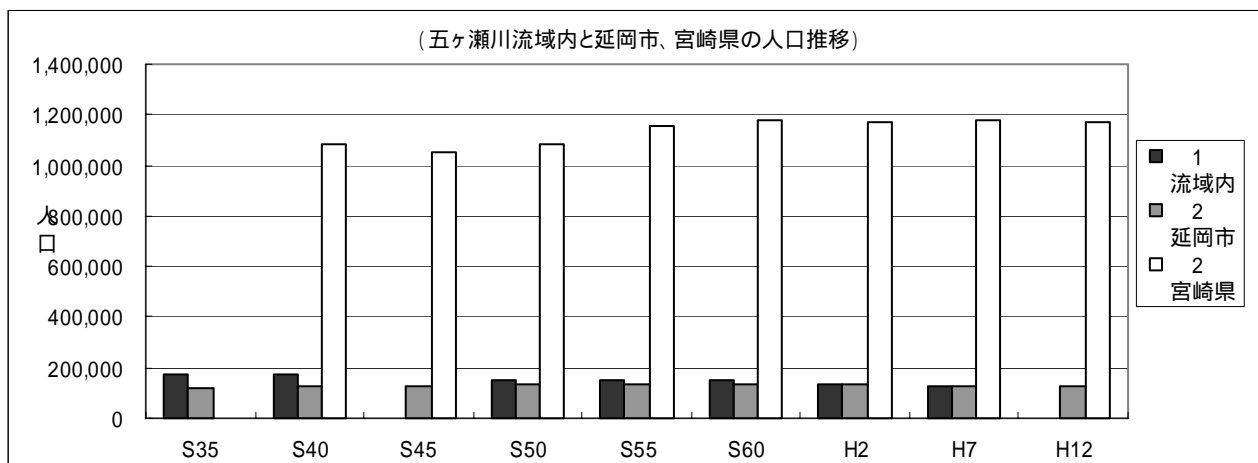
表3-2-1 流域人口の推移

（人）

	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12
1 流域内	174,640	172,807	-	152,134	150,611	148,643	134,128	127,638	-
2 延岡市	122,527	124,000	128,292	134,521	136,598	136,381	130,624	126,629	124,761
2 宮崎県	-	1,080,692	1,051,105	1,085,055	1,151,587	1,175,543	1,168,907	1,175,819	1,170,007

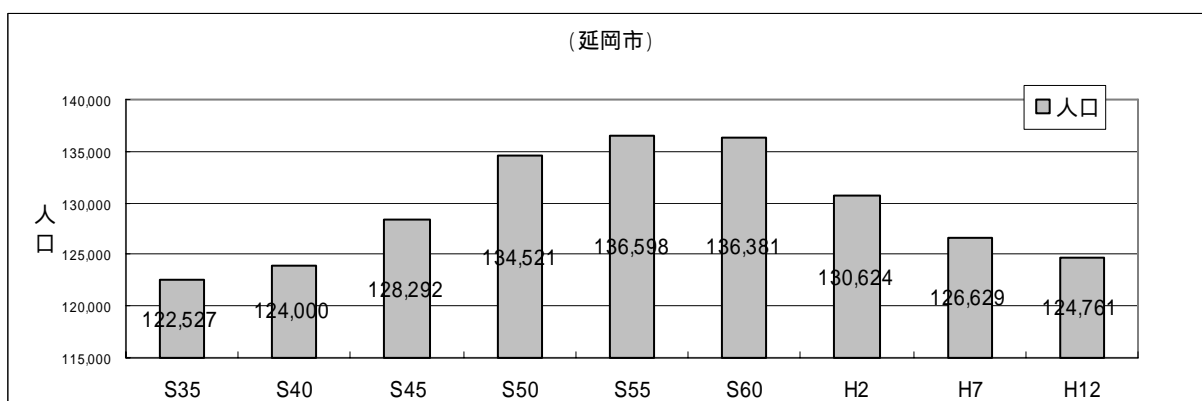
出典： 1 河川現況調査

： 2 宮崎県、熊本県、大分県統計年鑑



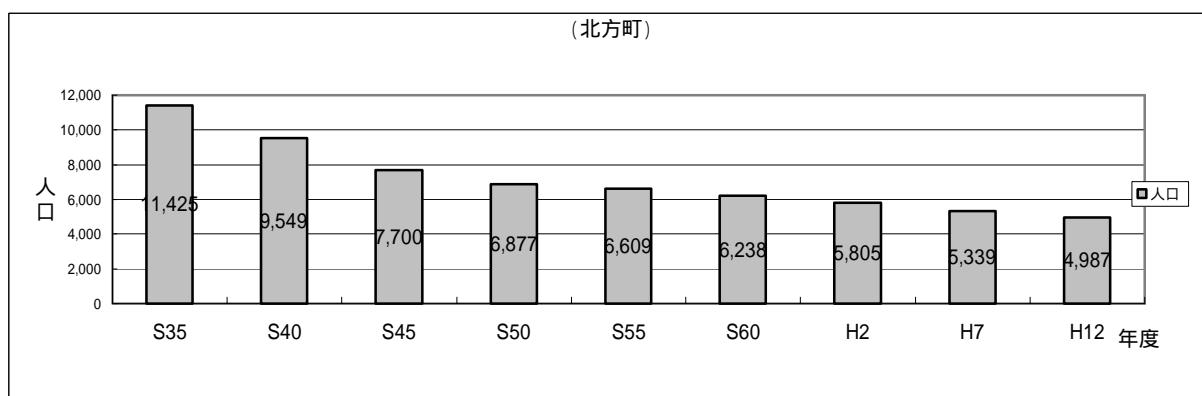
出典：河川現況調査（流域内）、宮崎県統計年鑑（延岡市、宮崎県）

図3-2-1 五ヶ瀬川流域内と延岡市、宮崎県の人口推移



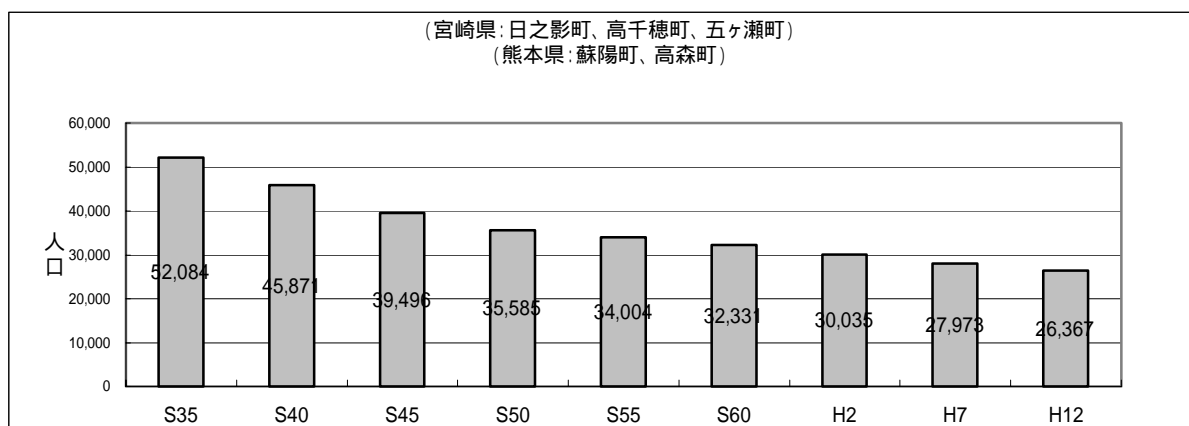
(出典：宮崎県統計年鑑)

図3-2-2 下流域の人口推移（延岡市）



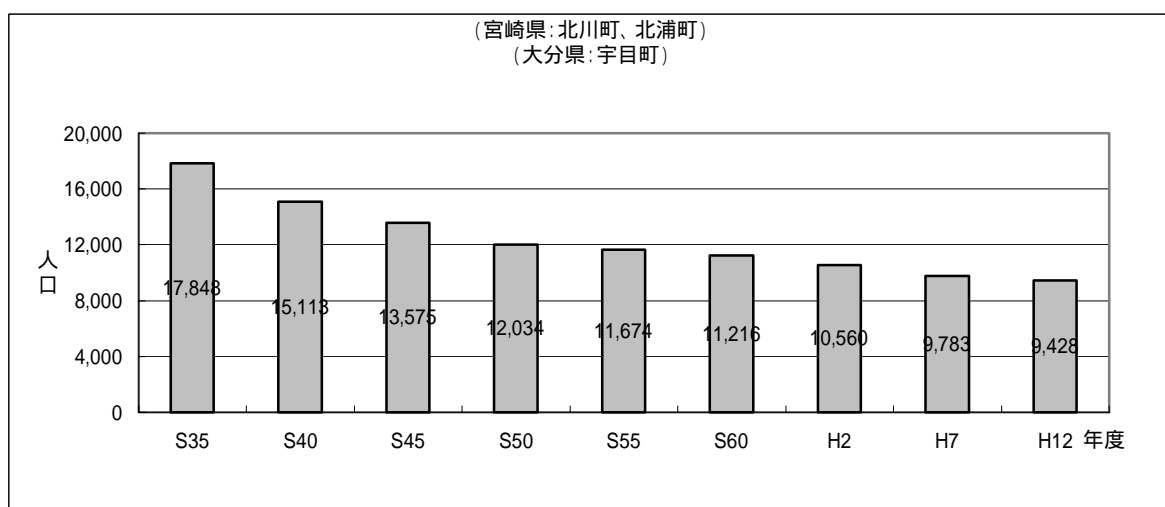
(出典：宮崎県統計年鑑)

図3-2-3 中流域の人口推移（北方町）



(出典:宮崎県、熊本県統計年鑑)

図3-2-4 上流域の人口推移
(宮崎県:日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町、熊本県:蘇陽町、高森町)



(出典:宮崎県、大分県統計年鑑)

図3-2-5 祝子川・北川流域の人口推移
(宮崎県北川町、北浦町、大分県:宇目町)

3 - 3 . 産業経済

流域内の総資産額は、平成2年時点では1兆2439億で、その約半分は家屋資産が占めている。

表3-3-1 流域内資産額

家屋 資産額	家財 資産額	事業所 資産額	農漁家 資産額	合計
(50.4)	(16.4)	(31.3)	(1.9)	(100.0)
627,510	203,418	388,757	24,189	1,243,874

出典：河川現況調査（基準年 平成2年度末）

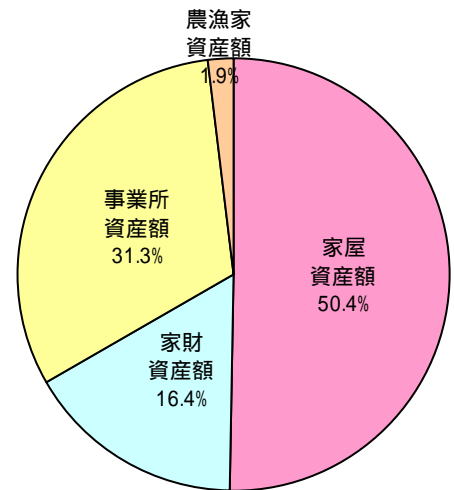


図3-3-1 流域内資産額の構成

流域内の産業は、上流域では木材生産及び木製品製造が盛んで、また支川北川上流では窯業用鉍石が採掘されている。一方、下流域では、旭化成を中心とする化学工業が盛んである。また、主要都市の延岡市は新産業都市に指定されている。

五ヶ瀬川流域内の産業別就業人口は、宮崎県とほぼ同様の構成比となっているが、第2次産業の構成比がやや高くなっている。これは、旭化成を中心とした化学工業が盛んであることによるものと考えられる（図3-3-2参照）

表3-3-2 平成12年の産業別就業者人口 (人)

	1 五ヶ瀬川流域内	2 宮崎県
第1次産業	12,360	74,013
第2次産業	19,867	143,649
第3次産業	32,035	347,773
就業人口	64,262	565,435

出典： 1 河川現況調査（基準年 平成2年度末）
 2 宮崎県、熊本県、大分県投影年間及び国勢調査注）就業者のうち「分類不能」とされるものは除外した

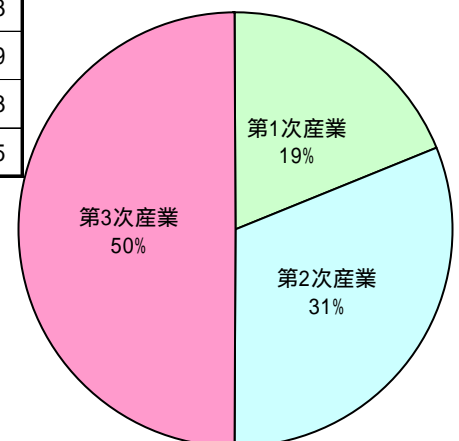


図3-3-2 産業別就業者人口の構成比

3 - 4 . 交通

当該流域における鉄道機関としては、福岡市から小倉、大分を經由し、延岡市、鹿児島市に至るJR日豊本線がある。これは東九州地区の幹線鉄道であり、物資輸送に大きな役割を果たしている。また、延岡市から流域を縦断する高千穂鉄道は、流域関係市町村及び観光客の重要な交通手段となっている。

一方、道路については、国道10号線が大分県から北川町、延岡市を貫通して宮崎市方面へと流域下流を南北に横断する形で走り、また国道218号線が熊本から九州山地を横断し、流域内の町を本川に沿う形で東西方向へと經由して延岡市まで延びており、それらの道路が交差する延岡市は東九州の交通網の重要な拠点となっている。しかし、当該流域内の市町は、九州内の高速道路開通地域のなかでもインターチェンジまでの距離が遠く、大都市圏と比較すると遠距離移動に時間を要する地域となっている。そのため、道路整備計画に重点がおかれており、北九州より北川町、延岡市を貫通して鹿児島まで延びる東九州自動車（高速道路）や、九州縦貫自動車道と東九州自動車道を結ぶ延長約95kmに渡る九州横断自動車道延岡線などが整備中であり、またそれらの高速道路にとれない、延岡市、北川町周辺の国道整備も進められている。

また、宮崎県では、「ひむか歴史ロマン街道」として歴史資源を活用しつつ、地域連携を目指したネットワークづくりが推進されているとともに、北方町、日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町などでは、フォレストピア六峰街道として、県北6町村の中央部尾根筋を通過する広域幹線林道の整備を推進している。



図3-4-2 道路整備図

(出典：国土交通省 九州地方整備局 延岡工事事務所ホームページより)



(出典：国土交通省 九州地方整備局 延岡工事事務所ホームページより)

図3-4-3 延岡工事事務所管内地域図

3 - 5 . 将来構想

当該流域は、宮崎県、熊本県、大分県の3県にまたがっており、それぞれの県による長期計画等において、各地域の将来構想が持たれている。

(1) 宮崎県

延岡市、北浦町、北川町、北方町、日之影町、高千穂町、五ヶ瀬町は、「みやざき21世紀デザイン 第5次宮崎県総合長期計画(H13.4)」において、東臼杵・西臼杵地域として地域構想が図られている。ここでは県下屈指の産業地域である延岡市を中心として、諸産業の振興による経済基盤の強化や地域内連携を深めるとともに、多様な自然・文化資源を生かした地域外との交流機能の強化を図ることにより、「豊かな自然と産業集積が織りなす、東九州の中核圏域の形成」が求められている。

- 1 . 産学官連携による新産業分野の創出と産業集積の拡大
- 2 . 大地と海の恵みを活用した農林水産業の振興
- 3 . 内外に開かれた歴史・文化交流圏の形成
- 4 . 流域を単位とする広域連携の先導地域の形成

(2) 熊本県

高森町・蘇陽町は、「熊本県総合計画(H12.6.30)」において、阿蘇地域として地域振興計画が策定されている。経済環境の大きな変化を迎えたことにより、これまでの観光リゾート地域の形成方向から、地域の過疎、高齢化を踏まえた新しい観光地づくりをめざして、「観光と暮らしが共生した地域づくり」が推進されている。

- 1 . 特色を生かした活力ある地域産業づくり
 - (1) 阿蘇21農業・農村づくり
 - (2) 豊かな森林資源の活用と保全
- 2 . 地域資源を生かした観光地づくり
 - (1) 自然・歴史に包まれた神々の郷づくり
 - (2) 交通基盤づくり
- 3 . 安全・安心な地域社会づくり
 - (1) お年寄りが輝く元気な阿蘇づくり
 - (2) 環境が景観に配慮した地域づくり
 - (3) 火山地帯としての防災の推進

(3) 大分県

宇目町は、大分県による「おおいた新世紀創造計画(H11.12) - 地域編 - 」において、豊後水道沿岸の海岸線や五ヶ瀬川水系等の自然に恵まれた地域で構成される「県南圏」に位置付けられており、大分地方中核都市圏と宮崎地方中核都市圏を結ぶ交通ネットワークや経済交流の拠点となっている。

美しく豊かな自然資源が豊富なこの地域は、それらを活用した農林水産業や観光における振興が図られているとともに、今後は高速道などの道路整備による交通網の発展により宮崎県との交流による各種事業の促進が予想される地域とされている。

- 1．地域連携と交通基盤の整備による利便性の高い生活圏の実現
- 2．地域特性を活かした付加価値の高い産業の展開
- 3．誰もが安心して暮らせる、ゆとりとやすらぎに満ちた地域社会の実現
- 4．美しい自然を活かした観光と交流の推進